

日産などと協定、災害時活用

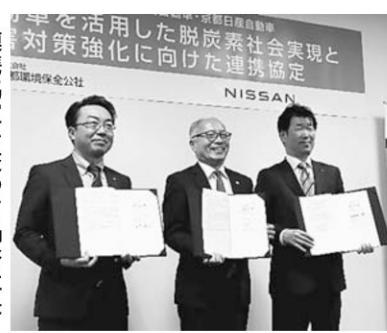
産業廃棄物を運搬処理する

役立てる。

京都環境保全公社(京都市伏見区)は15日、日産自動車、京都日産自動車(南区)の2社と脱炭素化に向けた連携協定を結んだ。産業廃棄物を活用した脱炭素社会実現と対策強化に向けた連携協定

EVに蓄電し、災害時などに

日産がEVの普及と災害時の活用などを目的に全国で取り組む連携活動で、京都府内では久御山町、福知山市に続き3例目。事業所では初とい



公社

連携協定を交わす鍋谷社長
(中央)と日産自動車幹部ら
京都市伏見区・京都環境保全

(柿木拓洋)

公社は、日産のEV「リーフ」を新たに3台導入した。効率の熱回収施設を使い、一部の電気をEVに給電して業務や停電時に蓄電池として活用する。

公社の事務所で2社の代表と協定書を交わした鍋谷剛社長は「災害時にEVを近くの避難所に届けるなど災害レジリエンス(強じん性)の強化に取り組む」と述べた。

産廃処理の電気でEV蓄電 京都環境保全公社

公社

連携協定を交わす鍋谷社長
(中央)と日産自動車幹部ら
京都市伏見区・京都環境保全

(柿木拓洋)